

大規模工事の一般競争入札

平均応札者数が増加

国交省06年度発注

「1者のみ」も過去最高8件

国土交通省が発注する大規模工事（WTO政府調達協定の適用対象）の一般競争入札で、01年度から減少傾向にあった応札者数が、06年度は増加に転じたことが分かった。06年度の大規模工事（予定価格7・2億円以上）1件当たりの平均応札者数は9・6者で、近年では最も少なかった05年度の応札者数（平均6・8者）を大きく上回った。ただ、応札者が1業者しかない「1者応札」の入札が過去最高の8件で発生したことも分かった。

同省の集計によると、06年度に発注した大規模工事（港湾空港関係を除く）は169件だった。00年度以降の入札1件当たりの平均応札者数（カッコ内は入札件数）は、▽00年度10・1者（196件）▽01年度9・3者（212件）▽02年度8・6者（174件）▽03年度8・1者（220件）▽04年度8・1者（168件）▽05年度6・8者（124件）で、06年度は平均応札者数、入札件数とも大きく上向いた。

一般競争入札は指名競争入札と違って、発注者が入札参加者を絞り込まないため、入札の透明性や競争性が高まるとされ、18日に開かれた全国建設業協会と国土交通省の中国ブロックの意見交換会では、応札者数の減少は競争の形がい化を招くとして危惧する発言や、行政側に対策を求める意見が出たが、06年度の集計をみる限り、状況は変わりつつある。

一方、同省の調べでは1者応札が急増したことも分かった。1者応札の発生件数は00年度が1、01年度が2、02年度が4、03、04年度はゼロ、05年度が2だったが、06年度は前年度の4倍にはね上がった。工種別では建築2、電気設備2、暖冷房衛生設備2、建築1、鋼

応札の増加について、同省は「一般競争入札は誰でも参加できる自由がある」と同時に、参加しない自由もある。潜在的な参加者があれば良く、特に問題視していない」（技術調査課）としている。